

## 郷土館発

### 「誇り」「愛着」ある 施設を目指して

本年四月に奥三河郷土館長を拝命いたしました。もとより浅学非才で、専門的な知識はありませんが、今後とも新たな郷土館へのご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

新たな奥三河郷土館は、旧館の基本理念「ふるさとのかくらしとところを伝える」を受け継いでいます。博物館法に基づく施設ではないものの、特定の分野に留まらず、旧田口線車両、戦争中の暮らしの資料、土雛等、特徴的な展示を含め、自然史部門、考古歴史、民俗部門を融合した町外に誇れる総合的施設として、町内外から多くの方々に観覧いただいています。

それでは、昨年五月十三日の開館以来、一年を経過しましたので、現況について報告します。  
◆令和三年度年間実績

二階来館者五〇、七七五人、入館者(有料展示)九、四二七人、そして今年状況は、五月十四日から二十二日までの道の駅一周年祭に係る「無料ウィーク」八日間を含め、二階来館者数八、七二〇人、入館者数(有料展示)三、一二八人を数えることができました。ご来館ありがとうございました。

本年度は、設楽ダム水没予定地等の埋蔵文化財に係る発掘調査の成果について、出土資料、映像資料、ジオラマ、パネル等を展示し、わかりやすく紹介します。より多くの方々のご

来館をお待ちしています。

### 愛知県埋蔵文化財センター

#### 「秋の埋蔵文化財展」

期間 八月三十一日(水)～

九月二十六日(月)

会場 企画展示エリア(二階)

また来年度には、観光協会で「山」をテーマとした展示が計画されています。自然と人文の併設施設の特徴を活かすため、地形、自然形態と人々の暮らしや信仰との関連を紐解くとともに、「言い伝え」「伝説」「昔話」について、文献資料を始め地域住民を巻き込んだ調査等により民俗的な側面を加えて、連携できればと思います。

当施設は、町の玄関口に位置することから、重要な観光資源となります。観光協会等と連携相互補完し、町外からの来場者には郷土館を起点に、設楽町の良さに興味・関心を持っていただくことを第一歩とし、さらに現地を訪れる動機づけや案内、資料の充実につなげていくことが重要と思います。

また、文化施設としての機能をさらに高めるため、町民参画による調査・研究機関としての役割を果たして、町民が身近に感じられ、「誇り」「自信」「愛着」を体感できる施設づくりに努めなければならぬと思います。

今後、新たなアイデンティティや理念の構築に努め、より開かれた施設を目指していきたいと思います。

(奥三河郷土館長

原田 和久)